

第1部会における議論のまとめ(たたき台)

1 めざすべきまちのイメージと基本的な視点

(1) 次の10年、杉並をどのようなまちにしたいか

- 若い世代も移り住んでみたいと思う、「安全で魅力あるまち」
- 自然の力を活かし、共に未来につなぐ「豊かな環境のまち」

(2) 基本的な視点

- ① 杉並区の住宅都市としての基本的性格は今後とも変わることはないとの考えに立って、ソフト・ハードの施策を総合的に講じて、質の高い住宅都市づくりを目指す。
- ② 東日本大震災を踏まえ、減災対策を進め、まちの安全性をより一層確保する。
- ③ 東京のまちが大きく変化している状況や高齢化の一層の進展を踏まえ、将来を見据えた都市基盤の整備等により、まちの利便性と快適性を向上させる。
- ④ 災害時における情報収集・情報発信や、人と人とのつながり、地域の絆を深めるコミュニケーションツールとして利用する観点からも、ICT(情報通信技術)の活用積極的に取り組む。
- ⑤ 区民の交流、つながりが深まり、区外の人にも訪れたいと思うまちとなるよう、駅周辺を核として、まちの賑わいと多彩な魅力を広げていく。
- ⑥ 杉並の歴史、文化、伝統や自然を身近に感じられる居心地の良いまちを創造する。
- ⑦ 自然の力を暮らしや経済活動に活用し、エネルギーの自給能力を高めつつ、災害に強く、持続的な発展が可能な地域社会づくりを進める。
- ⑧ 誰もが環境の視点で考え、共に行動できる意識と機運を高める取り組みを行うとともに、政策効果を上げていけるよう、工夫を凝らした情報発信に取り組む。
- ⑨ みどり・水辺の環境を守り育て、安らぎとうるおいに富んだ、自然環境と人の営みが共存するまちを形成する。

2 政策の基本的な方向

(1) 災害に強い安全・安心なまち（防災・防犯）

- ① 火災、地震や都市型水害などの災害に強い「安全なまち」
- ② 地域の絆で共に助け合う「防災力・防犯力が高いまち」

(2) 利便性が高く快適なまち、魅力的で活力あふれるまちをつくる

（まちづくり・産業）

① 「魅力的で賑わいのあるまち」

杉並のまちは均質で平板な構造であることをふまえ、多心型のまちづくりを進める。

② 都市基盤が整った、「利便性が高く機能的なまち」

「すぎ丸」など小回りの効くバスが走行できる、駅へのアクセス道路こそ、高齢社会に必要な道路である。また、都市計画道路の整備率が約5割であることをふまえ、プライオリティーをつけて南北交通の改善を優先する。

③ 施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの建物や都市空間、交通アクセスが整備された、「誰もが安全・快適に利用できるまち」

④ 「人と人とのつながりを生み出すまち」

「座・高円寺」は、他の地域からも人を引きつけて、まちのにぎわいを創出し、商業を活性化した。これを杉並の他の地域にも、その特性（歴史、文化、自然環境など）に合わせて、波及させていく。

⑤ 住環境になじむ、杉並らしい都市型産業や文化で、「杉並の魅力を発信するまち」

(3) 人と地球にやさしいまち、安らぎとうるおいのあるまちをつくる（環境・

みどり）

- ① 再生可能エネルギーの利用拡大と省エネ対策に取り組むとともに、地球環境の保全に関する意識や行動を支え、広く浸透させていくため、区民・事業者との協働により実現をめざす「環境負荷の少ないまち」

- ② 防災上の観点からも、みどりがネットワークされ、公園、農地や企業グラウンド等を含めた緑豊かな自然環境を保全・創出・共有する「ゆとりとうるおいを実感できるまち」
- ③ 区民や地域の団体、事業者が主体となり、環境に関する多様な取組みや活動が行われる、「一人ひとりが主役の環境のまち」

3 戦略的・重点的な取組の方向性

(1) 東日本大震災を踏まえた防災都市づくり

- 「大地震は必ず来る」との考えに立って、これまでの防災対策を強化して万全を期すために、国や都と連携して、まちの不燃化や耐震化、延焼遮断帯となる道路の整備、低層木造密集地域の解消を一層進め、減災のまちづくりを推進する。
- 災害からの復興計画の策定に当たっては、狭あい道路や大規模なオープンスペースの不足など、杉並のまちの防災上の弱点の改善を図るように配慮する。
- 高井戸インターチェンジ(オンランプ)の開通など、区民の利便だけでなく、災害時の緊急輸送や救助・復興にも大きな役割を果たす。今後10年以内の実現を図る。
- 区民にとっても高い利便性を提供する「東京外かく環状道路(地下方式の本線)」について、区民が利用しやすい道路となるよう、国・都に積極的に働きかけを行う。

(2) 杉並の「顔」をつくる荻窪駅周辺まちづくり

- 50万都市の大きな中心核を考えると、区内最大の交通結節点である荻窪が一番ふさわしい。しかし、荻窪は区内JR中央線各駅の中で唯一、高架化がされておらず、南北が分断されている。杉並全体が伸びていくために、南北分断を解消し、都市機能のさらなる強化を図って、荻窪の潜在能力を生かしきることが必要である。関係機関等と連携を図り、杉並の「顔」としてのまちづくりを、積極的に推進する。

(3)再生可能エネルギーの活用と省エネ対策

- 再生可能エネルギーの普及・拡大や省エネ対策を進めるとともに、情報技術を駆使し、区民の取組状況や成果を「見える化」することにより、暮らしや経済活動のあり方を見直し、快適な環境を未来につなげていく。
- 省エネ・省資源や緑の確保などに対する、区全体や区民一人ひとりの取組みやその成果の「見える化」を図り、環境への意識の醸成を図る。
- 環境技術の効果的な活用を図るため、区民・事業者及び学識経験者や研究機関等との協力・連携を推進する。

(4)みどりがつながるまちづくり

- 大規模な公園などを整備するとともに、まちの景観や環境、防災等の機能を合わせ持つ公園や屋敷林、農地などの拠点となるみどりと、住宅などのみどりをつなげることで、みどりの豊かさを実感できるまちづくりを推進する。
- 農地や屋敷林は、環境、景観、防災など、地域で大きな役割を担っている。後継者問題や税制の問題があるが、これらの保全策を講じていく。